

スポーツ を学ぶ スポーツ で学ぶ

大阪体育大学は日本を代表する「スポーツの総合大学」。競技スポーツ、コーチング、保健体育、スポーツ心理、スポーツマネジメント、トレーニング、コンディショニング、健康など幅広い分野のスポーツ科学を学び、社会に貢献できる知識やスキルを修得します。卒業後は、プロ・実業団選手やスポーツ指導者、トレーナーなどとして日本のスポーツを支えるとともに、教員や警察官、消防官など公務員、ビジネスパーソンなどとして社会を広く支えています。



大阪体育大学 4つの ADVANTAGE

01

Learning

学び

「スポーツ科学」「教える力」を深く学ぶ
教員との距離の近さが際立つ

スポーツ科学に関する授業の質は講義も実技もハイレベル。スポーツ科学部は6コースあり、この6分野すべてをカバーしている大学は全国でもまれです。教育学部は約9割、スポーツ科学部では半数以上が教員免許を取得するなど、「教える力」を磨く環境が整い、高い教員採用試験合格率につながっています。学習支援室によるマンツーマン指導など、基礎学力の向上と各種採用試験の合格に向けた支援も充実。文武両道をめざしたクラブ生への学修支援は、大学スポーツ協会（UNIVAS）から最優秀賞を受賞しました※。学生と教員の距離感が近く、親身な指導と「面倒見の良さ」が伝統です。

※2021-2022 UNIVAS AWARDS

02

Careers

就職

公務員
現役109人
合格

キーエンス、ミズノ、リクルートHDなど、
大手企業、公務員に続々と内定

公立学校の教員採用試験（2025年度採用）は、元校長など多彩な教員、スタッフが面接指導などを徹底し、153人が合格しました（既卒含む。2025年2月末現在、新卒は延べ）。企業では、キーエンス、ミズノ、リクルートホールディングスなど大手に多数就職。人事担当者からコミュニケーション能力、リーダーシップといった非認知能力が高く評価され、ゼミ、インターンシップ、クラブなどを通じた人間形成が活きています。公務員試験（警察官、消防官、自衛官、行政職など）は過去最多の延べ109人が合格（2025年2月末現在）。特に消防官に強く、2020年度採用では就職率が全国1位（4.7%）となりました※。

※東洋経済新報社刊「本当に強い大学2020」



1965年の開学以来、歴史を重ねてきた体育学部は2024年、「スポーツ科学部」へと進化を遂げました。日本代表クラスの指導者を含め多数の専任教員が指導するクラブ、日本でトップクラスの充実度を誇る各競技の専用施設、さらに、スポーツ科学の幅広い分野を網羅したカリキュラム、最先端の知見を備え親身に指導する教員、先進の実験施設など、一人ひとりの夢をかなえるための環境がここにあります。

03

Facilities

施設

6 専用体育館と多数の競技場が隣接 医師常駐など心身のサポートも万全

競技別の専用体育館6棟と陸上競技場、サッカー場、ラグビー場、野球場、屋内野球練習場、テニスコートなどがそろい、競技専用施設の充実度は全国でトップクラス。スポーツと教育・研究のすべての施設が1キャンパスに集中、クラブ生にとって午後4時過ぎまで授業、その後すぐにクラブ活動と時間を有効に使えます。心身のサポート体制もトップ級。診療所は医師が常駐し、学生は負担なく利用が可能。最新鋭マシンが並ぶS&Cルームはナショナルトレーニングセンターで日本代表選手らをサポートしたスタッフが指導し、アスレティックトレーニング(AT)ルームの設備も充実。学生相談室・スポーツカウンセリングルームではプロチーム、日本代表選手のメンタル指導にあたる教員らが親身に対応します。

04

Club Activities

クラブ

プロ・実業団に62選手、 日本代表級の指導者ら専任教員が連日指導

全学生の7割以上がクラブに所属。プロ・実業団に62選手が進みました(2023年度卒業生)。同じ志を持った友人との切磋琢磨で磨かれた人間力は、卒業後もあなたを支える重要な資質になります。日本代表など世界を舞台に活躍してきた多数の指導者を始め、強化クラブを中心に指導者の大半は専任教員であり、競技力だけでなく勉学、生活態度にも目を配り、ほぼ連日指導。指導教員と学生との間に強い絆が育まれます。本学にとってクラブは教育、人間形成の場です。また、全クラブの統括組織として、全国に先駆けてスポーツ局を創設。育成・強化に加え、修学、キャリア形成、生活も支援しています。